

外見

小五

わたしのお父さんはナイジェリア人で、お母さんは日本人です。ハーフであるわたしは日本人とは少し見た目がちがいます。かみの毛がパーマでくるんだり、はだの色がちがったりします。そのことで保育園のときはバカにされたり、悪口を言われたりして、とてもつらかったです。

例えば、はだの色のことで、「まっくろくろすけ。」

と言われたり、かみの毛のことで

「ボンバーヘッド。」

と言われたりしました。また、わたしだけでなくお父さんも、近所の男の子

にはだの色のことでバカにされたり、「外国人は国に帰れ。」

というようなことを言われたりすることもありました。そんなときお父さんは、男の子に対して、

「世界には、いろいろなはだの色の人がいるんだよ。」

と伝えていてすごいなと思いました。

また、お父さんと二人で道を歩いていると、めずらしいものを見るような目で見られることもたくさんあり、「何でわたしだけが。」「こんな見た目じゃなければよかった。」と何百回も思いました。

でも、ふと考えてみると、お父さんの国ではわたしがふ通に見えて、反対に日本人はめずらしいものを見るような目で見られるのだと気づき、少し気

持ちが楽になりました。そして小学校に入学すると、わたしと同じようなハーフの子が他にもいたので見た目のことはだんだん気にならなくなりました。

けれど世界には、わたしと同じ思いをしている人がたくさんいるはずです。

今でも世界ではたくさん差別があります。「自分が世界の基準だ。」と思っている人、「他の人も自分の考えと同じでない」と許せない。」と思う心をもつ人がいるから、差別というような悲しいことが起きるのではないのでしょうか。

わたしは、アジア人であり、アフリカ人でもあります。だからこそ、様々な個性をもつ人に手を差しのべられる人になりたいです。

今、わたしはバレーボールをやって

います。

このスポーツを始めて、今まで「いやだな」と思っていたところである身長が高いところや外見が目立つところをいい個性としてほめられることも多くなりました。

このことから、自分のちがうところは場所が変わるとすばらしい個性でありほこれる個性になると気が付きました。

わたしは自分に自信をもって強く生きていこうと思います。